

ふりがな 氏 名	おぐら そういちろう 小椋 宗一郎	職 名	教授
取得学位	博士 ( 社会学 )		
学 歴	一橋大学社会学研究科博士後期課程総合社会専攻 修了		
受賞歴等	日本生命倫理学会より平成19年若手論文奨励賞受賞		
所属学会	日本倫理学会、日本生命倫理学会、唯物論研究協会、日本ヘーゲル学会		

### 教 育 活 動

(主な担当科目)

2019年：哲学・思想、倫理学、基礎ゼミナールⅠ、医学総論、生命科学  
 2018年：哲学・思想、倫理学、基礎ゼミナールⅠ、医学総論、生命科学  
 2017年：哲学・思想、倫理学、基礎ゼミナールⅠ、医学総論、生命科学

### 研 究 活 動

(著書等)

**【著書】**

- ・「第5章「新型出生前診断」をめぐるドイツの生命政策——ドイツ倫理評議会答申（2013年）と妊娠葛藤法改正（2009年）」、玉井真理子／渡部麻衣子（編）『出生前診断とわたしたち——「新型出生前診断」（NIPT）が問いかけるもの』、生活書院 共著 2014年7月
- ・「遺伝子差別」、玉井真理子／松田 純（編）『遺伝子と医療（シリーズ生命倫理学 第11巻）』、丸善、2013年4月
- ・ミヒャエル・フックス（編著）『科学技術研究の倫理入門』、松田純（監訳）、小椋宗一郎・堂園俊彦・中野真紀・宮島光志・中澤武・神馬幸一（訳）、知泉書館 共訳 2013年3月
- ・「医療と哲学」 三崎和志／水野邦彦（編）『西洋哲学の軌跡』、晃洋書房 共著 2012年4月
- ・「代理出産をめぐるドイツの言説——インドで代理出産を依頼した日本人とドイツ人の事例をめぐる」、日比野由利／柳原良江（編）『テクノロジーとヘルスケア——女性身体へのポリティクス』、生活書院 共著 2011年6月

**【論文など】**

- ・小椋宗一郎「着床前診断をめぐるドイツの論争——2011年のドイツ倫理評議会答申を中心に」、生命倫理学会（編）「生命倫理」通巻27号、2016年9月26日、63-71頁
- ・小椋宗一郎「着床前診断をめぐる最近の議論について——2011年のドイツ倫理評議会答申における「同一性」概念を参考に」、静岡哲学会（編）「文化と哲学」第33号、2016年7月20日、31-51頁
- ・「「妊娠葛藤」の意味について」、聖心女子大学キリスト教文化研究所（編）「宗教と文化」32、9-31頁 単著 2016年3月
- ・小椋宗一郎「「死生観」とはなにか」、日本思春期学会「思春期学」Vol.30, No. 4. 333-337, 2012年 単著



受け継がれる、凛とした、しなやかさ。

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY

・小椋宗一郎「思春期と死生観——大津中学生自殺事件の波紋」、日本思春期学会「思春期学」Vol.30, No.4. 338-342, 2012年 単著

・小椋宗一郎「ヨーロッパにおける「人格」の概念史と「人間の尊厳」——いのちの始まりをめぐる論争への思想的視座」、静岡大学哲学会「文化と哲学」第30号、87~104、2013年、単著

・「代理出産と不妊相談——ドイツにおける法と社会実践」、東京大学大学院人社会系研究科「死生学研究」15号 単著 2011年3月

【研究発表など】

・「着床前診断をめぐるドイツの苦悩——2011年のドイツ倫理評議会答申を中心に」、第27回日本生命倫理学会年次大会（千葉大学）ワークショップ 2015年11月29日

・「着床前診断をめぐるドイツの議論——2011年のドイツ倫理評議会答申を中心に」、第37回静岡哲学会（静岡コンベンションアーツセンター）シンポジウム 2015年11月3日

・「新型出生前診断」をめぐるドイツの生命政策、日本生命倫理学会（浜松アクトシティコンgresセンター）単 2014年10月29日

・「ドイツにおける「妊娠葛藤相談」について」、東海相談学会・東海心理学会（共催・名古屋大学）単 2014年9月27日

・「「人格」概念と「人間の尊厳」、静岡大学哲学会（静岡大学）単 2012年11月3日

・「「遺伝子差別」の定義と政策展望」、日本生命倫理学会第24回大会（立命館大学）単 2012年10月27日

社 会 活 動

・東海学院大学公開講座「幸せになるための哲学 —エピクロスの幸福論—」 2014/10

・神奈川大学エクステンション（生涯学習）講座「近代社会哲学」 2012/11

・神奈川大学エクステンション（生涯学習）講座「西洋古代哲学——ヘレニズムの死生観」 2011/11



受け継がれる、凛とした、しなやかさ。

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY